

GIFU UNIVERSITY

INTERNATIONAL JOINT DEGREE PROGRAMS

岐阜大学 国際連携専攻 ジョイント・ディグリープログラム

最も新しい
留学のカタチ

GIFU

INDIA

MALAYSIA



MAKE NEW STANDARDS.
東海国立
大学機構



岐阜大学



UNIVERSITI
KEBANGSAAN
MALAYSIA
National University of Malaysia

未来はあなたの成長を待っている... It's your turn!

岐阜大学が海外協定大学と 新しい留学のカたちをつくりました

ジョイント・ディグリー(JD)プログラムは、岐阜大学と海外協定大学(インド工科大学グワハティ校、マレーシア国民大学)が共同で開設する教育プログラム。国際的対応力(異文化適応力・国際的協働力)を備えた産業人および研究者の養成を目的としています。プログラムに参加した学生は岐阜大学と海外協定大学の両方に在籍し、標準修業年限(修士2年、博士3年)の中で一定期間を相手大学で修学します。留学を伴う国際的な教育環境の中で研究活動を行い、在学期間を延長することなく、2大学による国際共同学位を取得することができます。



インド工科大学グワハティ校



マレーシア国民大学

未来のグローバルリーダーへ

グローバルとは、国際的な視点を持ちながら地域の課題解決を目指すこと。人口13億のイノベーションを秘める大国インド、多文化が共生する東南アジアの成長国マレーシア、それぞれを代表する協定大学にはトップクラスの人材が集まっています。その地で生活し、留学先のJDプログラムの仲間と共に専門性を高め合いませんか？食糧、生物工学、新素材、環境、エネルギー分野など...将来、グローバルな視点を活かして仕事をしたい人、ここに集まれ！

ジョイント・ディグリープログラムで 活躍のフィールドを広げよう！

高い言語力と
コミュニケーション能力

異文化への理解
国際性

地域の課題を
探求・解決する
チカラ

世界と地域をつなぐ
産業人や研究者

POINT
1
特別な学位

大学院在籍中に留学する場合、一般的には休学する形をとるため在学期間が長くなりがちです。しかし、JDプログラムでは、相手大学と共同で専攻設計を行っているため、留学中に取得した単位が修了必要単位として認められます。つまり、留学をしない専攻の学生と同様に在学期間を延長することなく学位を取得することができます。またそこで得られた学位は、IITGまたはUKMと岐阜大学との国際学位であるため、国際的に活躍できる力を認められた証とも言えます。

POINT
2
実践的な英語力



講義中や研究活動、日常生活において、英語を用いたコミュニケーション機会が格段に増えます。海外の企業人や研究者と渡り合える実践的な英語力を磨こう！

POINT
3
グローバルな
視点を養う

インドやマレーシアへの留学で、日本から見るだけでは分からない文化や発想の違い、ダイバーシティを、身をもって実感することができます。現地の課題を通して私たちの地域社会に必要な新たな視点を持つことが、新しい産業、新しい技術をつくり出す為のより良い準備となるでしょう。

POINT
4
万全のサポート

【岐阜大学の経済支援制度】

- 入学金：不徴収
- 授業料：学期ごとに成績判定を行い、優秀者は免除(ただし、標準修業年限(修士2年、博士3年)を限度とする)※外国連携大学側(IITG・UKM)の入学金と授業料は免除。

【IITGやUKMをよく知る教員が留学をサポート】

JD設置に向けて何度も現地を訪問し交流を行ってきた本学教員が留学を支援します。

興味のある方は担当教員へ

食品科学技術(修士)は海老原へ
aebihara@gifu-u.ac.jp



食品科学技術(博士)は柳瀬へ
e-yanase@gifu-u.ac.jp



統合機械工学(博士)は久米へ
kume@gifu-u.ac.jp



材料科学工学(博士)はリムへ
lim@gifu-u.ac.jp



India
IITG
インド工科大学グワハティ校

Malaysia
UKM
マレーシア国民大学

留学体験インタビュー

2019年にインド工科大学に留学したJD1期生日本人学生
(国際連携食品科学技術専攻)に聞きました



インドの低所得層と高所得層の
生活の様子を見る機会があり、
日本と生活の質が大きく違うと
実感しました。そこで、日本の技術
を提供する、もしくは現地の雇用を
生むような事業を立ち上げること
で、生活の質を向上させる仕事がし
たいです。



現地で経済的な成長を感じ、日本企業の技術や製
品を海外の企業や市場に繋げるメーカーや商社の
営業職に興味を持つようになりました。また、貧困問題や
環境問題などを目の当たりにし、企業や自分自身の利益を
追い求めるだけでなく社会課題の解決を意識していき
たいと思うようになりました。インドでは人との対話を
重視するように自分自身変化したと思います。



実際に現地に渡り経
験することで、将来
は国内だけでなく、海外と
関わるような仕事にかか
わりたくて強く思うよう
になりました。自分(達)
の常識が世界でも常識と
は限らないということを
痛感させられました。

日本とは異なる価値観、考え方を
持つ人と関わる中で、自身の視
野が広がりました。日本国内だけでは
なく、海外で活躍する企業にも興味を
持つようになりました。インドに留学
する中で、「インド人の柔軟な発想力」
にとても驚かされました。



スペシャルインタビュー

本学教職員と有識者らが様々な視点からジョイント・ディグリープログラムを語ります。
QRコードの先で、インタビュー全文を読むことができます。



interview 1
インドの魅力とは
～インド工科大学グワハティ校との連携を考える～

(一財)バイオインダストリー協会
植物バイオテクノロジー研究会長
かずさDNA研究所産官学連携推進センター長
理化学研究所客員主管研究員

柴田 大輔 博士



interview 2
ジョイント・ディグリーを語る
～大学教育の新しい制度を導入した経緯・魅力とは～

岐阜県教育委員会事務局
教職員課 課長

北岡 龍也 氏



interview 3
国際協働教育の魅力とは
～インド工科大学グワハティ校からの視点～

インド工科大学グワハティ校
サフー・リンガラジ博士
Dr. Lingaraj Sahoo
カティアール・ヴィマル博士
Dr. Vimal Katiyar



interview 4
日本の世界競争力を担う人材とは
～国際協働教育の価値と期待～

株式会社インフォブリッジ・
ホールディングス・グループ
代表取締役

繁田 奈歩 氏



※ 肩書等はインタビュー当時のものです



岐阜大学
グローバル推進機構

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
TEL 058-293-3351
窓口対応時間 8:30-17:15
E-mail kokusaik@gifu-u.ac.jp

国際協働教育推進部門
ジョイント・ディグリープログラム
関連情報の詳細はこちら



ジョイント・ディグリー
帰国報告編はこちら

